

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用 に関する研究（2年次）

大分県教育センター教育相談部
指導主事 伊藤 由紀

I 研究の背景

文部科学省の「令和元年児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を受け、大分県の調査結果では、令和元年度小・中・高・特別支援学校におけるいじめの認知件数は、11,407件（前年度11,356件）と昨年度と同程度の水準であり、児童生徒千人当たりの認知件数は93.8件（前年度92.4件）で全国3位となった。これは、昨年度に引き続き、各学校が児童生徒の些細な変化を見逃さず、積極的にいじめを認知し、早期に対応してきた結果でもある。また、小・中学校の不登校児童生徒数は1,843人（前年度1,599人）と増加の現状がある。その要因として、「本人に係る状況」が小学生50.7%、中学生47.9%と一番多く、その中でも「無気力・不安」の生徒数約70～80%となっている。次いで、小学生では「家庭に係る状況」が21.3%、中学生では、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」17.6%となっている。

これまでも大分県教育委員会は、児童生徒のいじめ・不登校の未然防止に力を入れてきたが、家庭や地域社会の大きな変化により、人間関係をつくるスキルを身に付ける機会が減少している。その現状を受け、県教育センターでは、平成27・28年度に冊子「大分県版人間関係づくりプログラム（小学校・中学校・高校編）」を作成し、全公立学校に配布した。これを各学校で活用することにより、魅力ある学校・学級づくりにつながるよう進めてきたが、「人間関係づくりプログラム」の定着に至っていない。

そこで、本研究では、よりよい人間関係づくりのため、短時間の「人間関係づくりプログラム」の有効性ととともに、具体的な活用方法や実施するにあたっての課題を明らかにすることが必要であると考えた。

II 調査・研究の目的

児童生徒の人間関係をつくる力の育成を目指し、組織的であり実践的な短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果とともに、学校において実施する上での具体的な課題を明確にすることを目的とした。

III 調査・研究の内容

1 研究協力校で短時間の「人間関係づくりプログラム」を実施

研究協力校として、県内の同地域に所在する公立小学校1校（各学年1学級、20人前後在籍）、中学校1校（1学年2学級、20人前後在籍、2・3学年1学級、30人前後在籍）に依頼した。実施時間帯は、児童生徒の実態及び各学校事情等を考慮して、小学校は毎週火曜日昼休み後の13:25～13:40、中学校は毎週金曜日朝自習の8:00～8:15を活用して、短時間の「人間関係づくりプログラム」を実施した。令和2年7月～令和3年3月の期間に各学校を月1回訪問し、実施後に検討する内容や方法について助言を行い、課題を把握した。

2 研究協力校会議の実施

令和2年7月、10月、12月に、研究協力校2校の担当者を招集し、各校の短時間の「人間関係づくりプログラム」を実施するにあたっての課題や課題解決に向けての研究協議を、大分大学教育学部 藤田 敦教

大分県教育センター教育相談部

授の指導助言を得て行った。協議で得た短時間の「人間関係づくりプログラム」を有効活用するための方法を、各校の実践に生かした。

3 研究協力校での2回の「hyper-QU」結果の比較

「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート hyper-QU」（以下 hyper-QU という）を実施し、短時間の「人間関係づくりプログラム」の実施初期の結果（小学校5月、中学校7月）と、実施後期に行った結果（小学校12月、中学校11月）とを比較することによって、短時間の「人間関係づくりプログラム」の実践効果について分析した。

4 短時間の「人間関係づくりプログラム」を活用するにあたっての課題

短時間の「人間関係づくりプログラム」の実施初期と実施後期の教師の意識の変化について、アンケート調査を令和3年2月に実施した（表1）。1～4の項目は「思う・やや思う・あまり思わない・思わない」等の4段階とその理由を回答し、5～7は理由のみ回答を依頼した。その結果を分析し、プログラム活用にあたっての教師側の課題を明らかにした。

表1 短時間の「人間関係づくりプログラム」実施前後の教師の意識変化に関するアンケート

1	以下の項目に効果があると思うか
	「児童生徒間の友達づくり」・「学級内での児童生徒の居場所づくり」・「教師と児童生徒の関係づくり」・「学級経営の充実」
2	児童生徒の変化は感じるか
3	教師の指導・支援に変化はあったか
4	教師同士の関わりの変化はあったか
5	短時間の「人間関係づくりプログラム」の良さ
6	短時間の「人間関係づくりプログラム」の難しさ
7	短時間の「人間関係づくりプログラム」を続けるために必要なこと

IV 調査・研究の結果

1 短時間の「人間関係づくりプログラム」の実施

研究協力校2校については、令和元年度の「hyper-QU」の結果分析や、特定の学年による短時間の「人間関係づくりプログラム」実施の成果と課題をふまえ、担当教員を中心に、令和2年4～5月に全教職員対象の校内研修を行い、プログラムの体験及び共通理解のもと、全学年でプログラムを実施開始した。構成的グループエンカウンターエクササイズの内容は、「アドジャン」「二者択一」「質問じゃんけん」「いいとこみつけ」等、年間計画または学期計画を立てて実施した（別添資料1、2）。また、実施時のルールの中に「聴くスキル・話すスキル」をソーシャルスキルトレーニングとして取り入れ実践した。小学校は学級単位で、中学校は、2学期以降学級単位だけでなく、全校縦割りグループでの取組も行った。教師の負担軽減のため、各校の担当者が中心となって、年間または学期計画立案や、プログラムで使う掲示物、振り返りシート等の準備をしたり、チームティーチングでの支援を行ったりした。また、校内研修や月一度の訪問助言において、進捗状況を把握し、実施する上での留意点を確認することで、短時間の「人間関係づくりプログラム」を進める上で、教職員全体の共通理解を図った。2校とも、年間通して概ね週1回、小学校は計24回、中学校は計29回（予定含む）実施することができた（別添資料3、4）。

2 「hyper-QU」結果の比較

研究協力校2校で、短時間の「人間関係づくりプログラム」の実施初期と後期に2回 hyper-QU を実施し、その結果を分析して、全10学級の児童生徒の変容を見た。学級満足度尺度の2回目の学級満足群は、1回目

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する研究

より増加した学級が4学級、低下及び変化がなかった学級がそれぞれ3学級ずつであったが、7学級で全国平均値よりも高い値であった(図1、2、3)。学級不満足群は、低下及び増加がそれぞれ4学級ずつ、変化なしが2学級であったが、7学級で全国平均値よりも低い値であった。侵害行為認知群は、低下及び変化なしがそれぞれ3学級、増加が4学級であり、6学級が全国平均値よりも低い値であった。非承認群は、低下及び増加がそれぞれ4学級、変化無しが2学級であったが、7学級が全国平均値よりも低い値であった。それぞれの学級内での課題はあるものの、全ての学級満足度尺度において、半数以上の学級で全国平均値よりも良い値を得ており、短時間の「人間関係づくりプログラム」を活用しての効果があると考えられる。

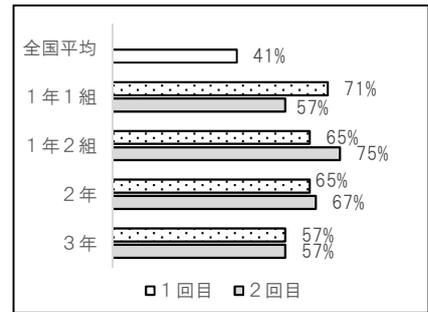
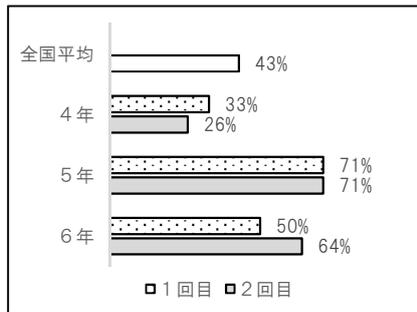
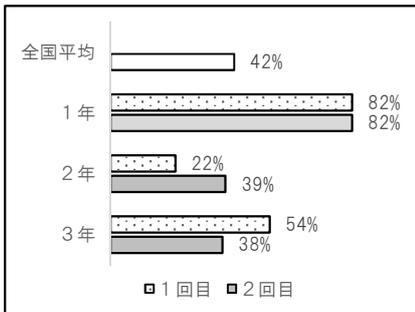


図1 小学校1～3年・満足群

図2 小学校4～6年・満足群

図3 中学校1～3年・満足群

だが、承認得点(周りから認められているか)及び非侵害得点の平均値については、どの学級においても大きな変化が見られなかった。それぞれの学級内及び児童生徒一人一人への課題に対しての働きかけがまだ不十分であることが言え、プログラムの継続実施の必要性があると言える(図4、5、6、7)。

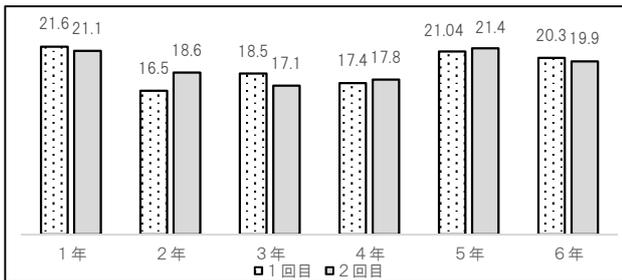


図4 小学校・承認得点平均値

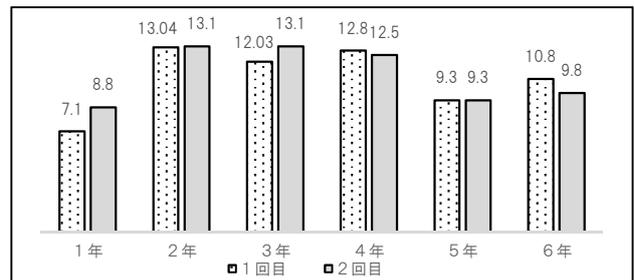


図5 小学校・被侵害得点平均値

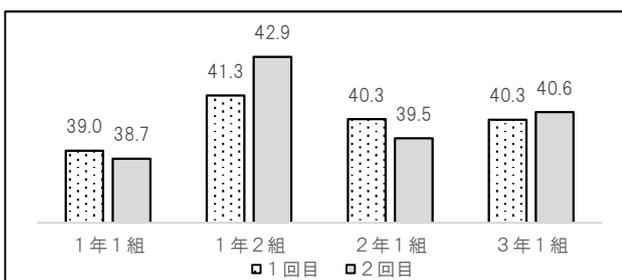


図6 中学校・承認得点平均値

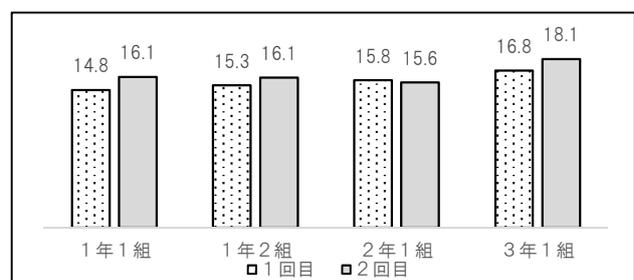


図7 中学校・被侵害得点平均値

3 教職員の意識変化のアンケート結果

研究協力校2校の教職員23名に、短時間の「人間関係づくりプログラム」の実施初期と実施後期の教師の意識の変化について、アンケート調査を行い、以下のような結果が見られた。

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果について、図8から、「児童生徒間

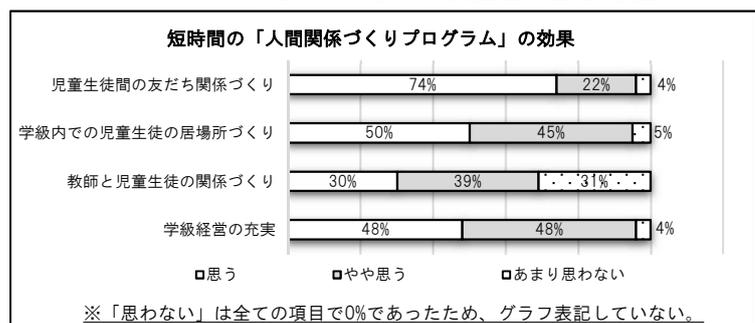


図8 教職員へのアンケート結果①

大分県教育センター教育相談部

の友達関係づくり」と「学級内での児童生徒の居場所づくり」、「学級経営の充実」の項目に対して、「やや思う・思う」を合わせると95%以上の教職員が効果ありと回答した。理由として、「特定の友達以外の友達といろいろなエクササイズを通して、関わるができるので、友達づくりのきっかけになると思う」や「同じルールのもと、いくつかのエクササイズを行うので、どの子も安心して取り組める」、「シェアリングの仕方は、日頃の他の教科指導などでも役に立つ」等があった。「教師と児童生徒の関係づくり」は「やや思う・思う」を合わせて69%、「あまり思わない」が31%であった。理由として、

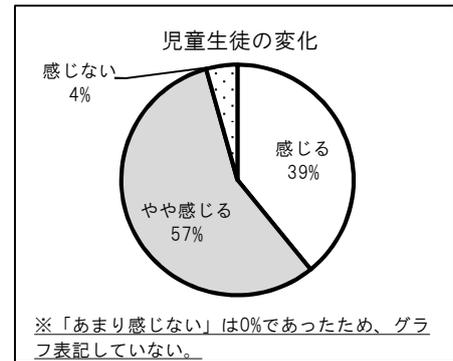


図9 教職員へのアンケート結果②

「子どもについて、教師が知らない面も知ることができ、児童とのコミュニケーションに役立つ」や「子ども同士の活動中心となるので、そこまで教師と児童の関係づくりに効果があるとは感じない」等があり、短時間の「人間関係づくりプログラム」における教職員の児童生徒との関係づくりの捉え方の違いが見られた。また、図9の「短時間の『人間関係づくりプログラム』に取り組んで、児童生徒の変化を感じるか」の項目について、96%の教師が「やや感じる・感じる」と答えた。理由として、『「ありがとうございます」『よろしくお願いします』が、よく聞かれるようになった』や「話の聴き方が上手になった」、「周りに興味関心を持つようになった」、「この時間を楽しみにしている雰囲気がある」等があった。アンケートの全般を通して、短時間の「人間関係づくりプログラム」における児童生徒の変化、また教職員の関わり方に肯定的な変化があったことがわかった。しかし、継続する上での「難しさ」や「必要なこと」に関する項目については、「自分の進め方が正しいのかどうか、子どもにどこまでの姿を求めるべきなのか」や「生活にどういかされていくのか」、「継続、定着までのルーティン化」、「全職員の協力の必要性」、「教師の意識と時間の確保」等、教職員個人のスキルや、学校全体の取組としての課題が見受けられた。

V 考察

1 成果

本研究での短時間の「人間関係づくりプログラム」の活用について、研究協力校2校のhyper-QUと教職員の意識変化のアンケートの結果及び分析から、短時間の「人間関係づくりプログラム」は、児童生徒の変化を明確に見ることができ、魅力ある学校・学級づくりを行う上で有効であると考えられる。

また、以下の3点をふまえて取り組んだことが、効果的な活用につながったと思われる。

①教職員のスキル向上及び共通理解を図るための定期的な校内研修等の実施

年度当初に、担当教員が中心となり、プログラムの意味や仕方等について、演習を含めた研修を行ったことで、教師自身のプログラムの捉え方を正確なものにして実施開始できたと考えられる。また、職員会議や朝会、校内研修等の時間を有効活用し、進捗状況や実施上の留意点等をその都度確認していったことも、質の担保につながっていったと思われる。

②年間または学期計画の立案及び実施

担当教員が中心となって、プログラム実施前に、全教職員へ計画案を提案したことで、いつ、どのような内容を、どのようなねらいで行うかを明確にすることで、教職員が見通しを持って取り組むことにつながったと思われる。また、実施する中で、具体的な内容や仕方について検討と改善を繰り返し、学校独自の取組にもなっていたと考える。

③学校全体での取組の必要性の共通理解

担当教員が中心となり、担任だけでなく、学年部の教職員、場合によっては管理職も入って、チームテ

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する研究

ミーティングでプログラムに取り組んだことで、全教職員が同じ方針で、児童生徒の適切な人間関係づくりの支援及び指導ができたと考える。また、管理職のリーダーシップのもと、年間を通して継続することの意義を教職員へ周知徹底したことも学校全体の取組となった大きな要因であると思われる。児童生徒の変容を教職員全体で感じることができており、今後のさらなる変容に期待がもてると考える。

2 課題

今回の調査研究で、教職員へのアンケートから、3点の課題が明らかになった。

- ①教職員の児童生徒への関係づくりについて、短時間の「人間関係づくりプログラム」の実施そのものだけでなく、授業改善や授業中の生徒同士の関わり方、授業やその他の活動における自己肯定感の高まり等の学校生活全般へのつながりが不十分であること
- ②継続、定着までの教職員の意識や協力を維持させること
- ③計画的に継続して、実施する時間の確保をすること

これらは、協力校2校が、年間を通して、学校全体で取り組んだことで判明した新しい課題であると考えられる。「人間関係づくり」は人との関わりの中で、ゆっくりと育まれるものである。短時間の「人間関係づくりプログラム」を継続することで、学校生活全般への汎化や教職員が一体となった学校全体としての取組につなげていけると思われる。今後もこれらの課題に向き合い、取り組んでいくことで、児童生徒が人との関わり方のスキルを身に付け、いじめ・不登校の未然防止につなげていきたいと考える。

VI 参考文献等

- ・「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(2020 文部科学省)

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する研究

【別添資料1】

小学校・短時間の「人間関係づくりプログラム」年間計画（案）

○活動時間：毎週火曜日 13:25～13:40

1 学期	2 学期	3 学期	エクササイズ	内容	ねらい
			めあて		
6 月 (4 回)			先生の○×クイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・全員 (先生対子ども全員) ・進め方やルールを確認しながら行う。 ・先生についてのクイズを聴き、○か×でジェスチャーや手を上げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の自己開示により、子どもとのリレーション（ふれあいの関係）をつくる。 ・今後のエクササイズで、子ども同士が問題を出し合う時のモデルを示す。
			先生のことを 知ろう		
	9 月 (2 回)	10 月 (1 回)	しつもんジャンケン	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア ・ジャンケンしながら、お互いに質問しあう。 ・気になったことを詳しく聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを、はっきり伝えることができる。 ・友達の話を最後まで聴くことができる。 ・友達の話をうなずきながら聴くことができる。
			友達のことを 知ろう		
7	10 月 (3 回)	1 月 (1 回)	どちらをえらぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアもしくはグループ ・2つの選択肢から1つを選び、自分の選んだものを伝え合う。 ・お互いに選んだ理由を伝え合う。 	
			友達のことを 知ろう		
7 月 (2 回)	11 月 (3 回)	2 月 (2 回)	アドジャン	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1（先生対児童） ・ペアまたは4人グループ ・「アドジャン」のかけ声に合わせて片手で指を出し、合計した数でお題に答える。 ・お互いに気になったことを聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知る。 ・友達のことを知る。
			自分や友達のことを 知ろう		
7 月 (1 回)	12 月 (1 回)	3 月 (1 回)	いいところみつけ	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに良いところを、カードを通して伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよいところを見つける。 ・自分のよいところに気づき、自己肯定感を高める。
			自分や友達のいいところを 知ろう		

○子どもたちの様子に応じて、学年毎に内容を検討する。場合によっては、変更もありうる。

○各エクササイズの内容を、事前の職員研修で体験し、検討する。

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する研究

【別添資料2】
中学校・短時間の「人間関係づくりプログラム」学期計画（案）

○活動時間：毎週金曜日 8:00～8:15 ○3～4人のグループでエクササイズに取り組む

【1学期】

月日	エクササイズ	取り組み方
7月3日	アドジャントーク「週末」編	・各学級
7月10日	アドジャントーク「部活動・社会体育」編	
7月17日	アドジャントーク「中体連」編	
7月31日	アドジャントーク「1学期末」編	
8月7日	アドジャントーク「1学期終業式」編	

【2学期】

月日	内容	取り組み方
8月28日	アドジャントーク「2学期の始まり」編	・各学級
9月4日	アドジャントーク「体育祭前日」編	
9月11日	アドジャントーク「体育祭」編	・全校縦割り（各専門部）
9月18日	アドジャントーク「専門部活動」編	
9月25日	（市新人戦のため実施なし）	
10月2日	アドジャントーク「近所のよしみ」編	・各学級
10月9日	アドジャントーク「中間テストお疲れ様」編	
10月16日	アドジャントーク「後期専門部活動」編	・全校縦割り（各専門部）
10月23、30日	アドジャントーク「週末」編	・各学級
11月6日	（県駅伝大会参加のため実施なし）	
11月13日	アドジャントーク「文化祭練習」編	・各学級
11月20日	アドジャントーク「文化祭」編	・全校縦割り（各専門部）
11月27日	（期末テスト期間中のため実施なし）	
12月4日	アドジャントーク「期末テストお疲れ様」編	・各学級
12月6日	（期末PTAにて、保護者対象アドジャントーク「期末PTA」編実施）	
12月11日	アドジャントーク「近所のよしみ」編Ⅱ	・全校縦割り（遠足班・1グループ10名ずつ）
12月18日	（遠足のため実施なし）	

【3学期】 ※3月5日現在

月日	内容	取り組み方
1月8日	アドジャントーク「新年バージョン」編	・各学級
1月15日		・全校縦割り（12月継続・1グループ10名ずつ）
1月22日	アドジャントーク「教科充実」編	・各学級
1月29日		・全校縦割り（12月継続・1グループ10名ずつ）
2月5日	アドジャントーク「2月のひととき」編	・各学級
2月12日		・全校縦割り（生徒会計画・誕生月12班）
2月19日	アドジャントーク「3年生を送る会迫る」編	・3年生のみ実施（1・2年生はテスト勉強）
2月26日	アドジャントーク「3年生卒業前」編	
3月5日	（卒業式のため実施なし）	
3月12、19、26日	質問じゃんけん、アドジャントーク（予定）	（在校生のみ実施予定）

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する研究

【別添資料3】

小学校・短時間の「人間関係づくりプログラム」年間実施状況

回	月日	エクササイズ
第1回	6月2日	先生の〇×クイズ①
第2回	6月9日	先生の〇×クイズ②
第3回	6月16日	先生の〇×クイズ③
第4回	6月23日	先生の〇×クイズ④
第5回	6月30日	アドジャン①
第6回	7月7日	
第7回	7月14日	いいところみつけ①
第8回	7月21日	
第9回	9月15日	しゅもんジャンケン①
第10回	9月29日	
第11回	10月6日	
第12回	10月13日	どちらをえらぶ①
第13回	10月20日	
第14回	10月27日	
第15回	11月10日	アドジャン②
第16回	11月17日	
第17回	11月24日	
第18回	12月1日	いいところみつけ②
第19回	1月19日	しゅもんジャンケン②
第20回	1月26日	どちらをえらぶ②
第21回	2月2日	
第22回	2月9日	アドジャン③
第23回	2月19日	
第24回	3月9日	いいところみつけ③

短時間の「人間関係づくりプログラム」の効果的な活用に関する研究

【別添資料4】

中学校・短時間の「人間関係づくりプログラム」年間実施状況

回	月日	エクササイズ
第1回	7月3日	アドジャントーク「週末」編
第2回	7月10日	アドジャントーク「部活動・社会体育」編
第3回	7月17日	アドジャントーク「中体連」編
第4回	7月31日	アドジャントーク「1学期末」編
第5回	8月7日	アドジャントーク「1学期終業式」編
第6回	8月28日	アドジャントーク「2学期の始まり」編
第7回	9月4日	アドジャントーク「体育祭前日」編
第8回	9月11日	アドジャントーク「体育祭」編
第9回	9月18日	アドジャントーク「専門部活動」編
第10回	10月2日	アドジャントーク「近所のよしみ」編
第11回	10月9日	アドジャントーク「中間テストお疲れ様」編
第12回	10月16日	アドジャントーク「後期専門部活動」編
第13回	10月23日	アドジャントーク「週末」編
第14回	10月30日	
第15回	11月13日	アドジャントーク「文化祭練習」編
第16回	11月20日	アドジャントーク「文化祭」編
第17回	12月4日	アドジャントーク「期末テストお疲れ様」編
第18回	12月11日	アドジャントーク「近所のよしみ」編Ⅱ
第19回	1月8日	アドジャントーク「新年バージョン」編
第20回	1月15日	
第21回	1月22日	アドジャントーク「教科充実」編
第22回	1月29日	
第23回	2月5日	アドジャントーク「2月のひととき」編
第24回	2月12日	
第25回	2月19日	アドジャントーク「3年生を送る会迫る」編
第26回	2月26日	アドジャントーク「3年生卒業前」編
第27回	3月12日	質問じゃんけん
第28回	3月19日	質問じゃんけん実施予定（在校生のみ）
第29回	3月26日	アドジャントーク実施予定（在校生のみ）